

# 救急車の利用

## 救急車を呼ぶのはこんなとき

- 突然うまく話せなくなる、顔の半分がゆがむ、しびれる
- 突然または持続する激しい頭痛、腹痛
- 胸が圧迫されるような痛み
- 意識がないまたはもうろうとしている、ぐったりしている
- 見える範囲が狭くなる、突然物が二重に見える
- 激しい咳が出る、ゼーゼーして呼吸が苦しく顔色が悪い
- 冷や汗を伴うような強い吐気がある
- けいれんが止まらない、止まっても意識がもどらない
- 突然、手足がしびれる、片方の腕や足に力が入らない

など

## 救急車を呼ぶ～搬送までの流れ

### 救急車を呼ぶ

- ①「119番」へ電話
- ②『救急です』と言う
- ③ 傷病者の状況を可能な限り伝える
- ④ 住所や目印になる建物を伝える  
(必要があれば案内に出る)

#### ★プレアライバルコール

迅速な対応を行うため、出動した救急隊が通報者に電話で状況の確認や指示をする場合があります。必ず電話に出られるようにしておいてください。

### 救急車が到着

- ①救急隊から以下を聞かれる
  - ・事故や具合が悪くなった状況
  - ・救急隊が到着するまでの変化
  - ・行った手当の内容
  - ・傷病者の情報(持病、かかりつけの医療機関、普段飲んでいる薬など)
- ②救急隊が搬送先を選定

「埼玉県救急医療情報システム」の最新情報をもとに、症状に応じた医療機関を選定

### 医療機関へ搬送

- ①救急隊や付き添い者に状況確認
- ②脈拍、血圧、呼吸状態などの確認
- ③症状に応じた検査の実施
- ④診断がついたら、すぐに治療開始
- ⑤緊急入院や手術の必要性を判断  
(状況に応じ、必要な薬をもらって帰宅)

救急車が来るまでに用意しておく便利なもの

- ・保険証や診察券
- ・お金
- ・靴
- ・普段飲んでいる薬、お薬手帳(乳幼児の場合)
- ・母子健康手帳
- ・紙おむつ
- ・ほ乳瓶
- ・タオル

# 救急医療に携わるお二人に話を聞きました

## 初期救急の立場から

桶川北本伊奈地区医師会では、行政と共に地域の皆様の健康を守るべく医療や介護に携わっています。皆様には、かかりつけ医を持ち、特にお子さんや持病のある人は、夜間や医療機関の長期の休みの前に、体調変化のきざしや、その時の対応方法を確認しておくとう安心です。また現在、体調に不安がない人も、健康診断を受け、現時点での健康状態を把握することが病気の予防の上からも重要と思われる。

診療科にとらわれず、まずは身近な『かかりつけ医』として、医療機関にご相談ください。

桶川北本伊奈地区医師会副会長  
北本地区代表

稲木 勝英さん



## 二次救急の立場から

北里大学メディカルセンター救命救急センターでは主に県央地区北部地域の二次救急を担っています。

通常の診療を行いながら、様々な工夫をしつつ、24時間365日、なるべく多くの患者さんを受け入れられるよう努力を重ねているところです。

急な病気やけがの際は、受診についてご相談ください。また、当院は災害拠点病院として、大規模な災害が起きた時には、多数の傷病者の医療に従事する、大切な役割も担っています。

北里大学メディカルセンター  
脳神経外科部長

近藤 宏治さん



誰もが必要なときにきちんと救急医療を利用できるよう、医療機関や救急隊の皆さんに必要以上に負担をかけないことが大切です。体調に不安を感じたら、昼間の診療時間内に早めに受診しておきましょう。

ですが、**本当に必要な時は、ためらわずにすぐ「119」してください。**

## 特集1

健康づくり課  
保健予防担当  
(☎ 594-5544)

# 救急医療の利用は正しい理解で適正に

急な病気やけがをしたとき、誰もがつい慌ててしまいがちですが、普段からそのような事態に備えておけば、いざというときに素早く適切に対応することができます。

必要な時ときに誰もが安心して救急医療を受診することができるよう、救急医療機関や救急車の利用方法について、正しい知識を身に付け適正に利用しましょう。

## 必要な人が必要な時に利用できるように

救急医療とは、突発的な事故によるケガや、予期せず発生した病気に対応するための医療全般を指します。症状の重さに応じて初期救急、二次救急、三次救急の3段階に分かれて対応します。

救急車は、通報に応じて出動するもので患者の症状から適切と思われる救急医療機関へ搬送します。令和3年の救急出動は3,047件、1日の平均は約9件でした。救

急搬送された人の中で、約36%が「入院を必要としない軽症の患者」でした。近年、救急車の出動が増え、最寄りの救急車がなくなることから救急隊が現場に到着するまでの時間も伸びています。

救急医療や救急車は、限りある資源です。本当に必要としている人が安心して利用できるよう、できることを実践しましょう。

# 救急医療の仕組み

## 初期救急

対応できる症状  
軽い病気(かぜなど)やけが

受診方法  
医療機関へ直接外来

対応する医療機関  
休日診療当番医、小児初期救急

## 二次救急

対応できる症状  
入院・手術が必要な病気やけが

受診方法  
救急車による搬送など

対応する医療機関  
北里大学メディカルセンター  
桃泉園北本病院 など

## 三次救急

対応できる症状  
生命の危機に瀕するけがや急病

受診方法  
救急車による搬送

対応する医療機関  
さいたま赤十字病院  
埼玉医科大学総合医療センター など

## 休日や夜間の急なけが・病気について電話で相談できます

家庭での対処方法や受診の必要性について看護師が相談に応じます

- 小児救急電話相談：#7119 または #8000
  - 大人の救急電話相談：#7119
- いずれも  
24時間  
365日受付

## 休日や夜間の診療は…

緊急性の高い患者を受け入れるのが主な目的であり、日中の診療や検査が受けられるまでの応急的なもので、検査項目も限られています。継続的な診療は行っておらず、処方される薬も原則として1日分です。このため、翌日にはかかりつけ医などで十分な検査や治療を受けていただく場合もあります。